

秘啓

秘書

此草録は、所多忙中、筆上り、馬達

感、在、案、り、乃、在、こ、以、書、中、一、應、申

上、墨、也

初、事、僅、こ、一、點、知、事、ノ、進、退、轉、地、こ

関、し、餘、り、長、文、行、山、十、几、事、ハ、敷、ハ

一、也、閣、下、ハ、持、こ、奈、良、縣、ノ、近、況、十、分

所、時、込、ト、事、存、ハ、處、所、内、話、中、是

ノ、領、解、し、難、キ、点、有、之、凡、月、大、略、也、

申、上、墨、也、凡

古、澤、が、一、百、年、来、縣、治、ニ、私、し、為、口

一、ト、奈、良、縣、下、ノ、不、幸、ヲ、歎、ス、凡、ハ、疾

ク、コ、馬、車、ニ、達、し、居、凡、若、ト、存、ハ、乃、今

更、其、件、々、ヲ、舉、ゲ、テ、申、上、セ、点、凡、之

ト、存、ハ、一、也、一、川、上、御、特、別、稅、ヲ、以、テ、私、し

し、存、ハ、一、也、長、谷、鐵、道、ノ、妨、害、ヲ、企



ト右ノ一ニ川上御特別税ヲ以テ私し
し先ノ一ニ長谷鐵道ノ妨害ヲ企
立テ私シタルヲ鼎人西村兼文ヲ推
入種ルノ付實ニ害ヲ興ル事甚
他日ノ悪計ハ決シテ枚挙ニ暇ナ
スルニ也

逐一店ヲ得成交之ハ現内閣ノ差
措キ別ニ奈良縣任税所官中顧問官
ナリ大坂任北畠治房ナリ内務省任
島久ナリ又奈良縣下ニテハ特ニ土倉
庄三郎ノ外自由堂中左澤ニ概
別縁故アルモノハ公債一般ニ任人
任事ト知ルテモ大抵左澤ノ悪計ニ
ラサルナキハ防範并可及ト存ル

北畠治房ハ奈良出身ノ人也平生ハ日人
ニ懇親ナル者トモ多ク之ヲ任事ノ交誼
モ多シ然ルニモ去十月ニ小生大
坂巡回中北畠ハ閣下ガ奈良京都

ノ博物館新設ヲ

上奏セラル

坂巡回中北島、閣下が奈良京都

ノ博物館新設ヲ

上奏せられし

タル、又閣下ノ藝術技藝等ニ殊功

在らせらる、一杯多ク話し及し又次テ毫

良器流下ノ、及ヒ北島ハ云ハク古澤

が奈良器下ニ換害ヲ告ヘタル、ハ強ト

教ヘ盡クス、ハカラス、奴輩、悪計至ラサル

ナレ、古澤が奈良ニ流氏ノ任ニ在ル、ハ

奈良器下ハ暗黒ノ世ト見ル、ハ針ハナレ

云々ト、此一事ハ、丁度カ生ガ旧器下ノ

専門事業ニテ、什貨技術藝ノ、

任在澤在任中、ハ奈良器下ノ不幸ナカ

ラ先ノ奈良ハ暗黒ノ世ト見ル、ハ外ナ

レトシテ、終ニ旧器下ノ、ハカ生ガ盡力着

手ヲ中止シ居ルト同情同感ニテ、特ニ

牧氏乃ノ不正ナル、ハ其間旧器下ノ不

幸ハ固ル、ハカラス、ハカ生ガ

汚意之、税所爲子、最初古澤ノ

小才巧弁ニ致サレ、古澤ヲ信シ古澤

汚意之 税所爲子、最初古澤ノ

小才巧弁ニ致サレ古澤ヲ信シ古澤

ヲ稱揚シ特ニ古澤ヲ博物館長ニ任ス

ルニアラサレハ税所ノ兼任モ解カレタレト雖

直レハ生コ直リ土方伯ニ直リ其後暴至

ラサルナキハ生ハ古澤ノ此ナルヲ知リワ、

不得已山高ノ兼任ヲ免シ古澤ヲ館

長ニ兼任セシメタルトシテ免

然ルニ名後教今月ヲ出テズシテ果シテ

大ボロヲ現ハシ不体裁ナカク兼任ヲ免

シタルトシテ免

凡一々年事前途ハ古澤ニアラサレハ速モ

奈良橋氏ニ幸福ヲ与フル者ハアラジト

マテ魅ヤラレタリシ税所爲子が妖教ケ

月以來、脱然トシテ夢醒メ来ワテ目

下東京滞在中ニモ稱唱ハツ、アル件

ルノ大略ヲ在ニ列記仕ル (此長ハ勿論
タルヲ知ル)

税所老人云ハク古澤ノ如キ狐狸同様ノ

魔物ヲ奈良ニ牧氏セシメテ政府ハ免

税所老人云ハク古澤ノ如キ狐狸目標)

魔物ヲ奈良ニ牧民セシメテ政府ハ其免

スルヲ為シ得スニハ税所ハ到底奈良

ノ居住ニ堪ヘズ去テ鹿見城下ニ隱遁

スルノミナリ云ル(老人ノ言ハ小見ノ如シ然レモ

方其真率ナルヲ喜スルコト是ル)

税老曰ク今度ノ縣會ニテハ各藩不信

任決議ヲ提出スルナルハシ云ル

又曰ク彼レ古澤ノ區計至ラザル⁺ハ萬人ノ

共ニ知ル處ナリ殊ニ松方伯⁺ハ先頃古

澤排斥運動ニ上京シタル連中⁺ニ十分

ノ添書ヲ持タセ置キタルヲ以テ現政府ハ

十分解シ居ル也然レモ樺山ニハ萬一

以上京中席モアレハ一通リハ強シ致ス

積リ也云ル

又曰ク北島治房ハ奈良下ニ勢力大ナリ

日人が結合シ居ル古澤排斥団体ハ益々

旺盛ニ赴ケリ是レモ大ニ功ヲ奏スルヤ

日人が結合し居る古澤排斥団体は益口
汪盛ニ赴ケリ是レモ大ニ功ヲ奏ス一キ
ナリ

又曰ク古澤ノ如キ者が知事タル者ハ奈
良ノ一連モ仕方ハナシ只々放下し置ク
ヨリ外ハナキ也且ハ彼奴隷ノ外才物ニ

テ甚傷多クナルナキニ付 怒レシノ 故ニ
税老ハヨラズ 善キ操ニアリ

るニ居ル也貴君モ餘リ熱心ニ掃清

アカメサル方下也云々 (老人ノ言カ兒ノ如シ
且勇分元氣ノ税老

モ今ハ氣力ノ衰
耗氣之毒ノ外幸也

又云ハクニ方今古澤排斥ノ声ハ臨下
到處ニ強汪也下ノ良民有力ナル志

士ハ尽ク彼奴ノ惡ヲ憎ミサレモハナキ也云々

又云ク古澤ノ轉免ヲ来年マデ待ツベ

シナド云ルナキナキ也芋ガ長官メ

ル以上ハ敏巧ナルナキ出来サルコトモ斯ル

正道ノ義ヲ執ルハ頗ル厚故ナラサル一カラス

ル以上ハ敏巧ナルトハ出来サルコトモ斯ル
正道ノ義ヲ執ルハ頗ル厚放ナラサルカラス
速クバシクヤウレノガルカラス云々

大凡右等ノ外尚古印ノ悪計毒為リ
指摘スルトハ頗ル詳明也夫ノ教十ヶ月前
マデハ右等ニアラサレハ奈良ノ幸福ハ降ラ
サレ也トマデ信ジキワタル親老ニシテ今ハ
即如此是以テ古澤行為ノ一斑ヲ推
知スルコト是ルト云々

古澤轉地ノ一ツ高島ニ密詔改メ
口中持ハ云ハツ當来穢會ノ大勢ヲ
定ムルハ古澤ハ第一免職ノ已ムカラス
人物也今轉地セシメテハ少ク免ノ字ガ
正引ナルヘシ少時待タシテハ如何云々

樺山内務ニ密詔改メ同氏ハ大ニ
清込委細ヨク領解ス唯今度大レ近ニ
手ヲソクル穢會ハマトマリ在ラザリレハ今
一應穢會ヲマトナテ決行可成云々

松平若相ニ密詔改メ其意能クハ頗

一應決議ヲマトカテ決行可成云々
松平若相ニ密詔致其意能く煩
解し去ル迄レは首相、依例直々ニ決行
ノ確答ハナクおんヤリ然タリ

相高平ノ議^{一理}アルト云レは古澤ハ一日
幸良ニ置テハ一日ノ損有之又彼レ小才
巧弁ニ長ケタルモノト云レ現政府ノ

基礎未ク鞏固ナリ除免官トナリテ
醜ヲ自由黨中ノ下劣ニ投シ施政ノ
妨害ヲ為サレタルモ格別ノ仕事ハ考シ得

サレモ毎好マサルト也夫レヨリハ幸方黨派
其他ニ格別ノ關係加換ヲ及ホサレ長
勲カ日向カ即千田カ小浦ノ代任ニ遣

ラレハ本人ノ高恩モ云上ノトニ共也
幸良ハ古印ノ如キ選リニ選リタル唯一
ノ醜類サレ進ハレハ代任ハ何人モラモ

強テ望ム處ハ十年也世間並々ノ良心ア
ル人物ニハハ幸福ニ才也

前内閣ノ時自由黨ハ政府ノ一部ヲ任ノ

人物の幸福の幸福也

前内閣の時自由黨が政府の一部たる

たれ時今古澤の俄かに自由黨を煩

精勤して奈良の田舎の自由黨を相

歴の奏功をあり前板垣内務大臣古澤

が偶として居りたることを聞かす(併右の人

物ノ悪しき正か之を認む由明言ありたり)

甚々執治と不都合なりと認めて已む

得ず終に古澤が三重縣を遷し前首相

相ノ割愛ヲ得テ較島武之介ヲ奈

良縣知事ニ送るに内定し上奏

文を出来て今ハノ間際に至り意外

の間に大妨害を生し(古澤ハ勿論奈

良に限るノ仕事要計アルヲ以テ必死ト

ナリテ奈良に留まらざり計管ス)一時

止むにたりて三重ハ佐賀へ轉し

又首相ハ較島ノ知事止むにたりヨリ

別に昇任ノヒムヲ得ザルヲ以テ辨理

又首相、^所駿島ノ知事止ミタルヨリ
別ニ昇任ノヒムヲ得ガルヲ以テ辨理
久使ノ名ヲ興フヘタル也

古澤ガ近來國民協會ヲ離反シテ

一意怡モ自由黨ニ精勤シツ、アル最

中自由黨ノ内務共、自黨ノ利ヲ擡テ

古耶ノ奈良ヲ追放スルノ已ムヘカク甘

ク認定法行セントシタルヲ以テ見ルモ右

耶ノ奈良ニ害アルトハ推知シ易キ也

右擡之次中ニ何卒高明ヲ以テ現

場実況内閣案之上近々ノ閣議ニ於

テ依例クらく優劣之論考起リ

之ニ大喝一声以テ何卒古耶ヲ

奈良ニ追放セウシ日向カ山口、片

向ケトスル也

政府ノ内意ハ千田カ小浦ヲ熊本、向

ケ其代知事ハ安樂(現今熊本)ヲ昇

任セシメテ度趣ニ付

場實況の内閣案之上近々ノ閣議ニ於
テ依例クテ優柔之論ヲ起リ
之ニ大喝一声以テ何卒古原ヲ
奈良ノ進放セウシ日白カ山口ノ
向ケトナカ

政府ノ内意ハ千田カ小浦ヲ熊本ノ向

ケ其代知事ハ安樂(現今熊本
縣書記官)ヲ昇

任セシメテ度趣ニ付

何卒古原ヲ右千田カ小浦ノ代ニ

遷サレテ奈良ハ安樂ニテモ誰シコトモ普

通ノ良心アル人物ニ付何人ニテモ臣

布也也

何卒此時ハ機舎ニ必然他ノ所遷

シトナカ
也 **秘書** 也

二月